

ニッポンハム食の未来財団 平成 29 年度第一期 団体活動支援助成 完了報告書

企画活動名	第 2 回 ふくおか食物アレルギー攻略法講座（講演会）
フリガナ	アベ タイスケ
申請者（代表者）氏名	安部 泰佑
団体名（正式名称）	団体名 : ふくおか・食物アレルギー研究会 役職・肩書など: 事務局長

1. 活動結果要約

アレルギー児をお持ちの患者及び保護者 24 名、園関係者 47 名、病院関係者 4 名の合計 75 名が聴講。

第 1 部：食物アレルギーのキーオピニオン MD の柴田瑠美子先生からアレルギーの基礎、各アレルギー除去に関する代替品情報および注意点、負荷試験から解除までの説明、園/学校で注意すること、小児アレルギー学会からの最新情報をご講演いただいた。第 1 回目の講演会聴講者からの要望として食物アレルギーに関する正確な情報、最新の情報がほしいことがあり今回もそれを満足させる内容であった。

第 2 部・第 3 部：2 班に分かれて 2 部 3 部で班入れ替え。柴田瑠美子先生の負荷試験事例を用いての実際とリスク等説明、園 / 学校などの生活上注意する点の講演および管理栄養士の上野恵美先生によるアレルギー対応食をおいしくつくるコツの講演とその講演内容の対応食の試食を実施。負荷試験事例からは実際に検査から治療までを事例で学ぶことができ有意義であった、こういう代替品があることを初めて知った、試食からは 7 品目除去でもこんなに簡単においしくできるなど、その存在と味を認識していただき安心していただける機会になった。

2. 活動目的

アレルギー児をお持ちの保護者は、誰もが治るものなのか、またこれから始まる治療について不安に考えている。そこで、アレルギーの正しい知識を持っていただき、例えば除去治療において、必要最小限の除去にとどめ成長期のお子さんの栄養を補っていくこと、限られた食材で栄養もあっておいしい治療食もあることをお伝えし安心していただく。第1回講演会において「治療」について情報を知りたい方が多かったため 経口負荷試験から除去治療等に特化して情報提供する。また、園/小学校関係者へ何の情報をどのように伝えればよいかわからない方も多いためそれをクリアにする。園関係者にも同様にアレルギーの正しい知識を持っていただき、保護者からどういう情報をもらい、事故が無いようにするにはどうしたらよいかを知ってもらう。対応食をおいしく楽しく作るコツとレシピを紹介し、その後紹介した対応食を試食してもらうことで、工夫次第で簡単に問題なくおいしく食べることができることを知って安心してもらう。(かぼちゃカレー、米粉めんパスタ、ピザ、米粉パン)

3. 活動方法

・当初の計画

平成 29 年 9 月、10 月のいずれか 1 日に 180 分程度

在福岡のアレルギーオピニオンの柴田瑠美子 MD、管理栄養士を講師として対象は、福岡及び近郊のアレルギーをお持ちの保護者および園関係者の合計約 70 名

講演内容 (案)

1. 柴田瑠美子 MD による食物アレルギーに関する講義 90 分

2. 2 グループに分かれ 45 分

第 1 グループ 参加者でアレルギー対応食の作成、試食とレシピ等講演 (管理栄養士)

第 2 グループ エピペンの使い方、経口負荷試験、除去食治療など (柴田瑠美子先生)

3. 2 の反転 45 分

・ 結果

平成 29 年 10 月 15 日（日）13：00～16：00 で実施＝計画通り

講師は、アレルギーオピニオンの柴田瑠美子 MD、管理栄養士の上野恵美先生＝計画通り

参加者は、保護者および園関係者の合計 75 名参加＝計画通り

講演内容は、柴田先生講演は計画通り実施済み＝計画通り

上野恵美先生部分で当初は参加者に実際に対応食を作って試食いただく計画であったが

料理教室付きの会場が取れず別会場にしたため調理が行えず試食のみに変更した。

一部運用変更しビュッフェ形式で実施した。

4. 結果及び波及効果

【当初計画】

1. 保護者に対し

- ・ 食物アレルギーの正しい知識を身につけた状態（経口負荷試験～除去食治療）
- ・ 無理なく治療（除去食等）が楽しくできることがわかり、安心した状態
- ・ 事故を防ぐためにやっておくことがわかった状態
- ・ 保護者が、園/学校関係者と何の情報をすり合わせておくべきかがわかった状態
- ・ アレルギー対応食作成と試食で簡単に作れて、充分においしく食べることができていることがわかった状態

2. 園関係者に対し

- ・ 食物アレルギーの正しい知識を身につけた状態（経口負荷試験～除去食治療）
- ・ 事故を防ぐためにやっておくことがわかった状態
- ・ 園関係者が、保護者と何の情報をすり合わせておくべきかがわかった状態
- ・ アレルギー対応食が簡単に作成できることがわかり、園の日常に活かせる状態

【結果】

1. 保護者に対し

柴田先生からは再度食物アレルギーの基礎から最新の治療までの講演を丁寧に説明いただき参加者には正しい知識を身につけていただき、無理なく代替食含む治療が楽しくできることがわかり、安心していただいた。また、園や学校で事故を防ぐためにやっておくことをご理解いただいた。アレルギー対応食試食では、お子さんと一緒にご参加いただき対応食でも充分においしく食べることができることをご理解いただき安心もしていただいた。

2. 園関係者に対し

保護者同様、再度食物アレルギーの基礎から最新の治療までの講演を丁寧に説明いただき参加者には正しい知識を身につけていただき、無理なく代替食含む治療が楽しくできることがわかり、安心していただいた。園での事故を防ぐために日常でやっておくことをご理解いただいた。園関係者が、保護者と何の情報をすり合わせておくべきかをご理解いただいた。アレルギー対応食試食では、園での給食やおやつ対応として対応食でどうすればおいしく作れるかをご理解いただいた。

【考察】

- ・第1回講演会の反省から柴田先生の講演を長くとったが多岐にわたり大変わかりやすく大変有用であった旨のアンケート結果から正確な情報と最新の情報を伝えることは大成功であったと考える。
- ・反省点は、2部3部での上野恵美先生の講演と試食会会場が会場の定員との兼ね合いでかなり狭くなり参加者に窮屈な思いをさせたこと、当社ビュッフェ形式で原材料表示をご確認後各テーブルに運んで試食いただくつもりであったが狭かったためスタッフが各テーブルに配布する方法となり時間がかかってしまったこと。そのため原材料表示が一部いきわたらないことも出、スタッフが対応に追われたこと（幸い誤食事故はありませんでした）があった。次回開催できれば、試食の会場、その定員や運営方法について事故がないことを最優先にどのようにすればスムーズか

を考える必要がある。

5. 今後の活動について

- ・アンケート結果から今回も食物アレルギーについて「正確な情報がほしい」「最新の情報がほしい」との要望が多かったため、今回のような食物アレルギーのキーオピニオンの MD に講演をいただいて最新の情報として検査から治療、予防、事故時の対処までの情報発信を継続して行うことが重要と考える。また、アレルギー対応食のレシピ含む試食も実際に食べておいしい安心とのお言葉をいただいているため併せて情報発信すべきであると考え。
- ・正確な情報、最新の情報を園関係者、患者家族が認識することで、園関係者は、患児に対して給食等での対応、その保護者との意思疎通が正確に行え、さらに健常児へアレルギーを理解させることが行える。また、患者家族は、自身のこどもを健全に成長させるための食生活を認識し、それをもって園、学校関係者へ何が良くて何がダメなのか等を正確に伝えることができる。
- ・今後の活動として、上記のことから少なくとも年に1回講演会（試食会含む）を開催したい。また、当研究会から常に正確な情報、最新情報を提供するためホームページを開設し常時情報を取れる状態にしておきたい。

以上